

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I		科目ナンバリング	YF_L12002
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。I期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」第3版 中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版、2015

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L22010
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-A コミュニケーション力 			

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」第3版 中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版、2015

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念ではあるが、危機的状況では、一時自己決定権を預かることも支援の一つとなる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的、立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	複雑化とともに、少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I		科目ナンバリング	YF_L22011
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法Ⅲ第3版」2015 中央法規

《参考図書》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2017

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。授業中の携帯の操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との相互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	YF_L22013
担当者氏名	河野 真			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

公的扶助の概念・対象・歴史とともに、日本の生活保護制度や関連する諸制度上の仕組みを学ぶ。さらに、低所得者対策等に関して学ぶとともに、相談援助活動や自立支援プログラムに関する知識を習得する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会/「新・社会福祉士養成講座」16 低所得者に対する支援と生活保護制度/中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。生活保護制度の仕組みと今日的動向を理解する。低所得者対策に関連する組織、専門職の役割について理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に際立ち教科書は必ず熟読しておくこと。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲、意義と役割
2	貧困・低所得者問題と社会的排除 (1)	貧困・低所得問題の意味
3	貧困・低所得者問題と社会的排除 (2)	社会的排除等の意味
4	公的扶助制度の歴史 (1)	イギリスの公的扶助発達史 (貧困の把握、対応策の変化)
5	公的扶助制度の歴史 (2)	日本の公的扶助発達史
6	生活保護制度の仕組み (1)	生活保護法の目的と基本原理
7	生活保護制度の仕組み (2)	生活保護法の原則
8	生活保護制度の仕組み (3)	生活保護の種類、内容、方法
9	生活保護制度の仕組み (4)	保護施設、被保護者の権利・義務、不服申立て
10	生活保護制度の仕組み (5)	生活保護の財源・予算
11	生活保護基準と最低生活保障水準	生活保護基準と最低生活保障水準
12	生活保護の動向・低所得者対策	生活保護の動向および低所得者対策
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	生活保護の運営実施体制と関係機関
14	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動	生自立支援プログラムの位置づけおよびその策定
15	自立支援プログラムの意義と実際	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動

科目名	介護概論	科目ナンバリング	YF_L22015
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論
 社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
 ②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
 またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果 (20%)
 授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) 課題レポート・小テスト (20%)
 コメントを付して返却します。
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について理解する。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について理解する。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①察観②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について理解する。
6	介護過程 (1)	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について理解する。
7	介護過程 (2)	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて理解する
8	生活支援技術の基本 (1)	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護方法について理解する。
9	生活支援技術の基本 (2)	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について理解する。
10	生活支援技術の基本 (3)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について理解する。
11	障害別生活支援 (1)	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害(盲ろう)の理解と生活支援について理解する。
12	障害別生活支援 (2)	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について理解する。
13	障害別生活支援 (3)	内部障害の理解と生活支援について理解する。
14	障害別生活支援 (4)	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について理解する。
15	障害別生活支援 (5) まとめ	認知症(若年性認知症を含む)の理解と生活支援について理解する。

科目名	社会調査の基礎		科目ナンバリング	YF_L22024
担当者氏名	田端 和彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

保育を含む社会福祉分野における社会調査の歴史的な役割を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。必要に応じてプリントを配布します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察など社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し地域社会における総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	社会を理解するうえで社会調査が必要となる理由や社会科学と社会調査の関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神保健福祉論	科目ナンバリング	YF_L12006
担当者氏名	後藤 謹武		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

保育者による母親支援、発達障害児の早期発見、虐待の早期発見をするための機能が今後ますます期待されている。これらを実践できるよう、メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけることを目的とする。

《テキスト》

指定テキストはなし。資料は毎回配布する。

《参考図書》

参考図書については適宜紹介していく。

《授業の到達目標》

「なぜ精神保健福祉を学ぶ必要があるのか」「学んだ内容を支援現場でどのように役立てるのか」を明瞭に説明できる。

《授業時間外学習》

精神保健福祉に関する新聞記事（インターネットのニュース等も可能）を切り取り、感想を記述し提出することで成績・評価に加点する。

《成績評価の方法》

レポート（提出物）・受講態度（出欠を含む）・期末テスト（70%）※出席時間数が授業時間数の2/3に満たない者は原則として期末試験を受けることはできない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講の目的について理解する。
2	こころの病	こころの病を発症した当事者の悩みや想いを理解する。
3	精神疾患による生活上の障害Ⅰ	統合失調症を患う人々の生活にしづらさについて理解する。
4	精神疾患による生活上の障害Ⅱ	気分障害を患う人々の生活のしづらさについて理解する。
5	精神疾患による生活上の障害Ⅲ	日本社会に深く浸透している「依存症」の実態について理解する。
6	精神疾患による生活上の障害Ⅳ	高次脳機能障害のある人の生活のしづらさについて理解する。
7	精神疾患による生活上の障害Ⅴ	発達障害のある人の生活のしづらさについて理解する。
8	精神障害の概念	精神障害の定義、精神障害の構造について理解する。
9	育児をめぐる精神保健	周産期の精神保健について理解する。
10	ストレスとセルフケア	ストレスの仕組みを知り、セルフケアの方法について理解する。
11	精神保健福祉サービス	精神障害者が利用できる医療や福祉のサービスについて理解する。
12	精神障害と社会	精神保健福祉制度の歴史的な発展経緯について理解する。
13	差別と偏見Ⅰ	精神障害者への誤解や偏見に基づく拒否的態度の根底について理解する。
14	差別と偏見Ⅱ	精神障害者への差別事例を学び差別と偏見の解消方法について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認する。

科目名	精神医学 I	科目ナンバリング	YF_L22027
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる		

《授業の概要》

代表的な精神科疾患についてその症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療がなされているのか、また精神障害者に対してどのような支援が必要であるかについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』第2版、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み (50%)
 レポート課題に対する取り組み (50%)
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害の理解	精神疾患の成因と分類について理解する。
2	精神疾患の症状と診断	精神疾患の様々な症状とその状態像を理解すると共に、その診断の手順と方法、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
3	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
4	症状性精神障害とてんかん	症状性精神障害とてんかんの症状とその治療について理解する。
5	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
6	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
7	自助グループ参加者の体験談	自助グループに参加し回復した当事者の体験談を聞いて、自助グループの役割やその働きについて考える。(ゲスト講師予定: AAメンバー)
8	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
9	統合失調症患者への支援について	統合失調症患者に対する支援やかかわり方について考える。
10	統合失調症当事者の体験談	統合失調症者の体験談を聞き、統合失調症への理解を深める。(ゲスト講師予定: 当事者)
11	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
12	気分障害の治療	気分障害の治療とかかわり方の留意点について理解する。
13	精神科医師による精神科治療について	精神療法、薬物療法の実際について理解する。(ゲスト講師予定: 精神科医師)
14	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。
15	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習 I		科目ナンバリング	YK_S12003
担当者氏名	杣山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美			
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する			

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基本を個別学習、個別指導形式により学ぶ。学習内容の理解を深めると同時に、自ら調べ、まとめ、そして発表するという個別研究の方法を修得することも目指す。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 幼児教育、保育、こども福祉等についての理解・認識を深めること。
- ② 音楽や造形等の幼児教育・保育に関わる実践力を磨くこと。
- ③ 自主的に学び、そして学んだ事柄をわかりやすくまとめて発表するスキルを獲得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%
- ・ 課題に対する評価 80% ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。提出された課題は、コメントを付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。やむを得ない理由で欠席する場合は、必ずチューターに連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習 I における学びの全体像を提示する。
2	研究発表の方法論を学ぶ	個別研究発表の仕方について学ぶ。特に、文献の収集方法と読み込み方について学ぶ。
3	研究発表の方法論を学ぶ	文献の読み込みや調査等を通じて学んだことのまとめ方と発表の仕方について学ぶ。
4	個別研究のテーマの選定	学生個々が興味・関心あるテーマを選定し、個別研究のリサーチクエストを設定する。
5	音楽表現	音楽活動を通して子どもの発達を支援する方法を学ぶ。
6	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
7	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
8	幼稚園での観察	幼稚園現場を訪問し、幼児教育の現場における実践を観察する。
9	校外学習	校外学習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの重要性に気づく。
10	校外学習を終えてのふり返りと造形活動	校外学習で感じたことを造形活動に昇華する。
11	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
12	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
13	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その1
14	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その2
15	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その3

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	YK_S12004
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基礎をゼミ形式で主体的に学ぶ。教員の専門領域における最新の知見等に触れることにより、追求すべきテーマを絞り込み、専門演習における学びにつなげていく。また学外実習を通じて、幼児教育・保育に関わる実践力も磨いていく。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

グループ学習時に、担当教員から適宜紹介される。

《授業の到達目標》

- ①幼児教育、保育、こども福祉の基礎についての理解を確固たるものとする。
- ②演習形式の授業で積極的に発言する等、主体的な学びのあり方について体得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%。
- ・ 課題に対する評価 80%。
- ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。提出された課題は、コメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。やむを得ない理由で欠席する場合は、必ずチューターに連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習Ⅱにおける学びの全体像を提示する。第2回以降において展開されるグループ学習の構成単位となるグループの編成を行う。
2	担当教員の専門領域に関するグループ学習～1	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
3	担当教員の専門領域に関するグループ学習～2	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
4	担当教員の専門領域に関するグループ学習～3	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
5	担当教員の専門領域に関するグループ学習～4	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
6	担当教員の専門領域に関するグループ学習～5	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
7	校外学習	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、季節と幼児教育ならびに保育の内容とをリンクさせることの意義を考える。
8	校外学習のふりかえり	校外実習を終えての ふりかえりを行うとともに、保育実践への昇華を試みる。
9	幼稚園での参与観察	幼稚園現場を訪問し、園児たちと活動を共にすることにより、幼児教育・保育の実践力を高める。
10	担当教員の専門領域に関するグループ学習～6	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
11	担当教員の専門領域に関するグループ学習～7	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
12	担当教員の専門領域に関するグループ学習～8	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
13	担当教員の専門領域に関するグループ学習～9	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
14	担当教員の専門領域に関するグループ学習～10	少人数制演習形式授業のまとめ。
15	こども福祉基礎演習のまとめ	担当チューターとの面談を通して、こども福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を総括し、こども福祉専門演習に向けての準備態勢を整える。

科目名	こどもの心理学Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S22010
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを知る必要もある。子ども時代に焦点を絞って、発達のプロセスと発達支援のあり方について学んでいく。

《授業の到達目標》

- 子どもたちの心身の発達と保育実践について理解すること。
- 普段の生活と遊びを通した学びのプロセスについて理解すること。
- 子どもたちの発達を支援する働きかけについて理解すること。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード—保育者を目指す学生の学びを通して』 若尾 良徳・岡部 康成 北樹出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《成績評価の方法》

- ・提出課題に対する評価 50% ・筆記試験の評価 50%
- ・提出課題は、提出するだけで得点を得られるのではなく、内容を伴わなければ得点は得られない。
- 提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。
- 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その1）。
3	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その2）。
4	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。
5	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
6	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その1）。
7	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その2）。
8	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“父なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
9	子どもの発達と出会い	人間関係の範囲が仲間関係へと広がっていく幼児期から児童期にかけての子どもたちの発達にとって、“友なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
10	集団の中の1人として	集団の構造と機能について学ぶとともに、子どもたちが集団生活の中で経験・学習することについて学ぶ。
11	子どもの生活と学び	「学習」のメカニズムについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
12	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的な生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
13	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを考える。
14	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身につけていくのかを考える。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

科目名	乳児保育 I	科目ナンバリング	YK_S22011
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する		

《授業の概要》

近年、核家族化と少子化の中で育った若い親たちは、乳児期の子育てに大きな不安を抱えている。そのような中で、保育所（園）が、子どもと親たちの生活と発達の間として急速な広がりを見せている。また、児童虐待も増加の一途をたどっており、深刻な社会問題となっている。養護施設や乳児院の果たす役割も大きくなっている。ここでは、乳児保育に必要な理論、知識、技術を学び実践力をつけることを目的とする

《テキスト》

『乳児の保育新時代』乳児保育研究会・著 ひとなる書房
『保育所保育指針解説書』
『保育資料集 2016』ミネルバ

《参考図書》

『わくわくどきどき てづくりおもちゃ』徳永満理他 かもがわ出版
『手あそび・わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版 他、適宜、講義時紹介する

《授業の到達目標》

- ・保育所保育指針における乳児保育の位置付けと内容を理解する
- ・0・1・2歳児の発達の道すじについて理解し、子ども理解を深める
- ・乳児期の生活とあそびについて具体的に学び、その技術を通して実践力をつける

《授業時間外学習》

- ・乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する
- ・乳児への読み聞かせのための選書と読み方を提起する
- ・保育所など乳児のいるところに行き、出来るだけ乳児に触れるようにする

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可） 70%
作品・レポート提出・授業内発表 20%
授業中の態度 10%

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻、早退は認めない
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語は厳禁
- ・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・乳児の概念及び乳児保育の概念 ・ビデオ『赤ちゃんの科学-赤ちゃんからのメッセージ』
2	発達とは	こどもの発達をとらえ基本的視点 発達の順序性、個人差等
3	乳児の発達①	新生児から0歳児前半（0～6ヶ月）-0歳児前半の発達の道すじと特徴- ビデオ視聴『赤ちゃんの一年～前半』 視聴の内容をメモする
4	乳児の発達②	0歳児後半（7か月～12ヶ月）-0歳児後半の発達の道すじと特徴- ビデオ視聴『赤ちゃんの一年～後半』 視聴の内容をメモする
5	乳児の発達③	1歳児の発達の道すじと特徴
6	乳児の発達④	続きの講義とビデオ視聴『発達診断の実際 1歳児』 視聴の内容をメモする
7	乳児の発達⑤	2歳児の発達の道すじと特徴
8	乳児の発達⑥	続きの講義とビデオ視聴『発達診断の実際 2歳児』 視聴の内容をメモする
9	乳児保育の内容と方法①	基本的生活を中心に-乳児保育の目指すもの- 保育園の一日-子どもの姿のビデオを視聴-メモを取る
10	乳児保育の内容と方法②	基本的生活を中心に-食事・睡眠・排せつ等-
11	乳児保育の内容と方法③	演習-赤ちゃんのおむつを替えて見よう 保育園におけるオムツ替えのビデオ視聴
12	乳児保育の内容と方法④	演習-赤ちゃんが喜ぶ「いないいないばあ人形」を作ろう
13	乳児保育の内容と方法⑤	演習-「いないいないばあ人形」の完成と発表
14	特別な配慮を必要とする子ども	病気がちな子ども、与薬の必要な子どもなど
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

科目名	乳児保育Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S22012
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳児保育Ⅰで学んだ乳児の発達の知識を基礎に、発達の道すじをより深く学ぶと同時に、保育所（園）・乳児院における保育内容を実践的に学び、生活と遊びのスキルを身につける。また、近年進行する少子化問題が、どのようなところからきているのかを、乳児保育の歴史からひもとき、保護者への子育て支援など、これからの乳児保育の課題について理解を深め、その具体的スキルを学ぶ。

《授業の到達目標》

乳児保育Ⅰで学んだ0歳児～2歳児の発達の道すじを深め、発達に沿った保育内容を進めるための、乳児保育の指導計画の作成の仕方を学び、適切な援助活動が出来るようになる。乳児保育を豊かに展開するための教材について学び、作成する。事例を通して多様な保育ニーズを知り、保護者支援について学ぶ。

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可） 70%
 作品・レポート提出・授業内発表 20%
 授業中の態度 10%

《テキスト》

『乳児の保育新時代』乳児保育研究会・著 ひとなる書房
 『保育所保育指針解説書』
 『保育資料集2016』ミネルパ

《参考図書》

『わくわくどきどき てづくりおもちゃ』徳永満理他 かもがわ出版
 『手あそび・わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版 他、適宜、講義時紹介する

《授業時間外学習》

- ・保育所における子育て支援などに関心を持ち、ボランティアなどをする
- ・乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する
- ・乳児への読み聞かせのための選書と読み方を提起する
- ・保育所など乳児のいるところに行き、出来るだけ乳児に触れるようにする

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻、早退は認めない
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語は厳禁
- ・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・乳児保育Ⅰの振り返り ・ビデオ視聴 「子どもの笑顔に会いたくない」
2	乳児保育の内容と方法	あそびを中心に あそびのあり方について
3	乳児保育の内容と方法	大人とあそぶ 「手あそび・わらべうた」演習
4	乳児保育の内容と方法	身体を使ってあそぶ 散歩の意義と楽しさを知るーしっぽとりのための教材を作る
5	乳児保育の内容と方法	お散歩を豊かにするために 制作ーお散歩マップ
6	乳児保育の内容と方法	友だちとあそぶ 制作ーカスタネットづくり
7	乳児保育の内容と方法	乳児のあそびと生活を豊かにするおもちゃ 制作ー手袋人形
8	乳児保育の内容と方法	乳児のあそびを豊かにするおもちゃ 制作ー手袋人形
9	乳児保育の内容と方法	生活を中心にー布おむつの役割とオムツ替えの演習 ビデオ「保育園のオムツ替え」 手あそび・絵本の読み聞かせの演習
10	保育の記録と計画①	子どもの姿・活動のメモと記録を取るの意味 手あそび・絵本の読み聞かせの演習
11	保育の記録と計画②	保育課程・指導計画の作成について 作成の演習 絵本の読み聞かせ・手あそびの演習
12	乳児保育と子どもの発達・親としての発達	子どもの成長発達と親としての成長の関わりとの関係性について 絵本の読み着せ・手あそびの演習
13	保育士のあり方をめぐって	乳児保育の中の保育士の役割と位置付け 絵本の読み聞かせと手あそびの演習
14	乳児保育のこれまでとこれから	乳児保育の歴史とこれからの課題について ・少子化対策にみる乳児保育など 絵本の読み聞かせと演習
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育 I	科目ナンバリング	YK_S22013
担当者氏名	星野 祥子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

- 障害についての基礎知識を身につける。
- 乳幼児の発達について学ぶ。
- 障害の状況や発達段階に応じた働きかけについて理解を深めていく。

《テキスト》

「保育者のためのテキスト障害児保育」（全国障害者問題研究会出版部） 近藤直子・白石正久・中村尚子

《参考図書》

適宜紹介します

《授業の到達目標》

障害についてや乳幼児期の発達についての理解を深め、一人一人の子どもの発達に応じた配慮や支援についてイメージできるようになる。

《授業時間外学習》

○障害についての書籍、ニュース、報道に興味を持つようにする。 ○授業で学んだことを振り返り、自分なりの意見をまとめる。また、自分の意見を家族や友人と話し合う機会を持つようにする。

《成績評価の方法》

小レポート（50%）、試験（50%）で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業のねらい、授業の概要、授業の進め方、評価の仕方について説明する
2	障害児保育について	障害児保育の歴史や障害の定義について
3	こどもの発達と気をつけること 乳児期I	こどもの発達の考え方について 乳児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
4	こどもの発達と気をつけること 乳児期II	乳児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
5	こどもの発達と気をつけること 幼児期I	幼児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
6	こどもの発達と気をつけること 幼児期II	幼児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
7	障害についてI	発達の遅れについての理解と保育について
8	障害についてII	自閉症の理解と保育について
9	障害についてIII	ADHDの理解と保育について
10	障害についてIV	視覚障害と聴覚障害についての理解と保育について
11	障害についてV	運動障害と医療的ケアが必要な児の理解と保育について
12	虐待について	虐待についての理解と保育について
13	”気になる子”について	”気になる子”の理解と保育について
14	障害乳幼児の生活	生活の中で気をつけることについて
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育Ⅱ		科目ナンバリング	YK_S22014	
担当者氏名	星野 祥子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

- 障害児保育が行われている場について知り、そこでの障害児保育の実践について学ぶ。
- 保護者支援、家族への支援について学ぶ。
- 関係連携機関について知る。
- 障害児を含めたクラス集団づくりや指導のあり方について考える。

《テキスト》

「保育者のためのテキスト障害児保育」（全国障害者問題研究会出版部） 近藤直子・白石正久・中村尚子

《参考図書》

適宜紹介します

《授業の到達目標》

- 障害児保育が実践されている場について学ぶこと、関係機関の役割を知ることを通して、障害児保育の実践について多面的に見ることができるようになる。
- ケーススタディを通して、集団保育の中での支援のあり方についてイメージできるようになる。

《授業時間外学習》

○障害についての書籍、ニュース、報道に興味を持つようにする。○授業で学んだことを振り返り、自分なりの意見をまとめる。また、自分の意見を家族や友人と話し合う機会を持つようにする。

《成績評価の方法》

小レポート（50%）、試験（50%）で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育の実践の場についてI	障害児保育が行われている場について
2	障害児保育の実践の場についてII	保育所・幼稚園での障害児保育について
3	障害児保育の実践の場についてIII	療育について
4	関係機関についてI	乳幼児健診、発達検査について
5	関係機関についてII	医療機関について
6	就学に向けて	就学に向けての連携、特別支援教育について
7	集団保育の中での支援について	集団保育の中での障害児への支援について
8	個別支援計画についてI	個別支援計画について
9	個別支援計画についてII	個別支援計画を立ててみます
10	家族支援についてI	保護者支援について①
11	家族支援についてII	保護者支援について②
12	家族支援についてIII	兄弟支援について
13	ケーススタディーI	実際のケースを想定して学びます
14	ケーススタディーII	実際のケースを想定して学びます
15	まとめ	障害児保育における保育士の専門性について

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	YK_S22015
担当者氏名	大西 雅裕		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《授業の到達目標》

- ①相談援助の基本的な知識を身につける。
- ②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
- ③援助者として必要な実践力を身につける。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 授業中に課すレポートと小テスト 20%
 合計 100%

《テキスト》

赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社

《参考図書》

橋本好市・直島正樹「保育実践に求められるソーシャルワーク」 ミネルヴァ書房
 対人援助実践研究会編「77のワークで学ぶ対人援助ワークブック」久美出版

《授業時間外学習》

講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行ってください。

《備考》

授業では受け身ではなく、自分自身で考え、それを文字や言葉やその他の方法を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ
5	対人援助の原則①	相談援助における対人援助の原則について学ぶ①
6	対人援助の原則②ソーシャルワーク実践の方法	原則について学ぶ② ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ
9	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ
11	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ
15	学習のまとめ及び筆記試験	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	YK_L23016
担当者氏名	片岡 章彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 		

《授業の概要》

現代家族の子育て環境における、家族の構成、子育て不安、育児ストレスや児童虐待等の要因について検討、考察する。そのうえで、どのような家庭支援が必要なのかを、その背景と援助の在り方について、「子育て支援新制度」の解説を踏まえると共に、保育現場での事例も交えながら理解を深める。また、保育者にはどのような社会的役割が求められているのかについても理解する。

《授業の到達目標》

- 現代家族における子育て環境の抱える問題、課題について知り、家庭支援の背景や必要性について理解する。
- どのような家庭支援の方法があるのか、また配慮が必要なのかについて理解に基づいた考えを述べる事が出来る。
- 保育者に求められる社会的役割を意識する。
- 事例を通して家庭支援の実際を学び、今後における課題を明確にする。

《成績評価の方法》

受講態度10%、課題提出物10%、グループワーク20%、筆記試験60%

《テキスト》

井村圭壯・今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房

《参考図書》

新保育ライブラリ家庭支援論[新版] 北大路書房実践
家庭支援論[改訂版] ななみ書房
これでわかる！子ども・子育て支援新制度 ひとなる書房

《授業時間外学習》

予習：事前学習としてテキストを読んでおき、自分なりの考えを整理しておく。
復習：授業で獲得した知識を、自分の考えとして述べたり生かしたり出来るように、振り返りと整理を十分に行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の機能とその変容	「家庭」についての理解を深める。
2	家庭支援の必要性	子育てをとりまく現状から、家庭支援の必要性について考え、理解を深める。
3	保育者が行う家庭支援の原理①	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
4	保育者が行う家庭支援の原理②	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
5	現代家庭における人間関係	社会変化に伴う、人間関係の変容について学ぶ。
6	地域社会の変容	家庭や子ども達をとりまく地域社会の変化を、写真や映像を基に学び、家庭や子どもの育ちにどのような影響をもたらしているのか理解を深める。
7	男女共同参画社会とワークバランス	男女共同参画社会において、特に保育者の役割について学ぶ。
8	子育て家庭のための社会資源	子育て家庭を支援するための社会資源の種類について調べて発表し、お互いの知識の交換を行うことで理解を深め合えるようにする。
9	子育て支援施策・次世代育成支援推進法①	今までの子育て支援施策と次世代育成支援推進法の違いについて理解する。
10	子育て支援施策・次世代育成支援推進法②	ある企業の子育て支援課の従業員という設定で、行動計画の作成をグループで話し合っを行い、次世代育成支援推進法の意義について理解を深める。
11	子育て支援施策・次世代育成支援推進法③	グループワークで作成した次世代育成支援推進法に伴う行動計画をグループ毎に発表し、色々な考えに触れながら学び合える機会とする。
12	地域の子育て家庭への支援	今の時代に即した子育て家庭支援における地域の役割について考える。
13	特別な配慮を必要とする児童及び家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもの支援方法と共に、保護者支援について考え学ぶ。
14	子育て支援における関係機関との連携	子育てを支援するうえでどのような関係機関が存在しているのかを学ぶ。
15	家庭支援と今後の課題	授業全体のまとめとして、これからの家庭支援について考え、自分なりの考えを確立する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	YK_L22017
担当者氏名	杉山 宗尚		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

この授業では、現代社会における家庭養育の状況や社会的養護の歴史の変遷、体系ついて把握する。また、家庭養護や施設養護の特質、施設養護の実際を具体的に学び、施設養護の内容を理解する。そして、この学びを通して、施設での実習に活かすことができるようになることを望む。

《テキスト》

「保育と社会的養護」井村圭壯・相澤譲治編著、学文社。

《参考図書》

「明日の子供たち」有川浩 著、幻冬舎。

《授業の到達目標》

- ①社会的養護の意義を理解できる。
- ②社会的養護の歴史的背景を理解できる。
- ③社会的養護の仕組みについて説明できる。
- ④家庭養護と施設養護・家庭的養護について説明できる。
- ⑤社会的養護施設における役割や機能、保育者の援助・支援について理解できる。

《授業時間外学習》

毎回授業で実施した箇所については、テキストやノート、配布資料等を読み返し、復習をすること。
また、レポート課題を求めることがあるので、そのために必要な事柄を調べることを。

《成績評価の方法》

理解度確認試験80%、レポート20%
理解度確認試験（各回のテーマ内容についての知識を問う問題により到達目標の①～⑤について評価する）、レポート（提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容）で評価する。
質問等は授業の前後にて受け付ける。

《備考》

施設実習に大きく関わる授業のため、意欲的に受講して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	子どもの育ちに与える影響について考える。
2	社会的養護とは何か	児童養護施設の実践から社会的養護とは何かを学ぶ。
3	社会的養護の歴史	社会的養護の歴史において貢献した人物と施設概要について学ぶ。
4	子どもの権利	子どもの権利について、児童の権利等に関する条約をふまえて学ぶ。
5	社会的養護の実施機関と法制度	社会的養護における実施機関と法制度について学ぶ。
6	家庭養護	里親、ファミリーホームについて
7	家庭的養護	家庭的養護と施設の形態、小規模化について
8	施設養護①	児童養護施設について
9	施設養護②	乳児院、児童自立支援施設について
10	施設養護③	児童心理治療施設、母子生活支援施設、障害児施設について
11	施設養護の実際	施設養護の流れをふまえ、実際の支援について学ぶ。
12	治療的支援の実際	児童心理治療施設の実践から治療的支援について学ぶ。
13	被措置児童等虐待	被措置児童等虐待について学ぶ。
14	施設運営管理	施設の運営管理について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業内容に関する理解度の確認

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	YK_S22018
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-A コミュニケーション力 		

《授業の概要》

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての役割についても理解する。

《テキスト》

特になし。適宜資料を配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）
 2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
- 授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割①	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。
3	家庭や社会の役割②	社会の役割と児童養護について考える。
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する
5	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。
7	児童養護の領域－養護系施設①－	児童養護施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
8	児童養護の領域－養護系施設②－	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
9	児童養護の領域－障がい系施設①－	知的障害児施設や盲ろうあ児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
10	児童養護の領域－障がい系施設②－	肢体不自由児施設や重症心身障害児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
11	児童養護の領域－その他の施設①－	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
12	児童養護の領域－その他の施設②－	情緒障害児短期治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
13	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
14	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I A	科目ナンバリング	YS_L22004
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
			開講年次・開講期
			2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

子どもの保健 I A を学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかわることができるときの学習であり、必要に応じて VTR を導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I - 心身の発達・健康と安全 -』
山崎知克 編著（建帛社）

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・胎生（胎児）から青年期までの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心と身体の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。
- ・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の子どもの保健と関連する番組を視聴する。
【よみうりテレビ 月曜日～金曜日 18:53～18:58
ten! <めばえ>】 新生児の特徴や親の子どもに対する思い・かかわり方を感じ取り、イメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

学期末試験（100%）

《備考》

1. ニュースや新聞での『子どもの健康』『子どもの事故』に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	VTR 視聴にて出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することができ、説明することができる。
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。（VTR 視聴予定）
7	乳児の成長発達①	乳児全般の成長発達と各時期ごとの主なからだの発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	乳児全般の成長発達と各時期ごとの主なこころの発達を理解することができる。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長するために幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントを理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解る。（子どもの保健の観点からの特異な虐待含む）
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に有効とされるワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	子どもを取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I B	科目ナンバリング	YS_L22005
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			

《授業の概要》

子どもの保健 I A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい病気・症状・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変時に『子どもたちの命を守る』という的確な判断とその対応が行えるようになるための学習であり、また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I - 心身の発達・健康と安全』山崎知克 編著 (建帛社)

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業の到達目標》

1. 乳幼児特有の感染症と症状、発達段階ごとの病気と症状、その予防と対応方法が解る。
2. 施設における事故に対する安全対策・事故時の対応が解り、保育者には常に子どもを守るという『危機管理』のがしかかっていることを理解できる。
3. 毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

子どもの保健と関連する番組を視聴する。

【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00~21:29】
乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
*番組テーマは毎週異なる。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート (10%)
- ・学期末試験 (90%)

《備考》

VTRを全員に観てほしいので、VTR視聴日には欠席しないようにすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの病気の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とその病気の症状・対応について理解できる。
2	病気をもった子どもへの保育者のかかわり方	病気をもった子ども・健康な子どもへの保育者の対応・役割が解るようになる。
3	学校において予防すべき伝染病	感染症と伝染病の定義が理解でき、『学校において予防すべき伝染病』の感染症の種類と出席停止期間の基準が解る。
4	子どもによくみられるアレルギー	子どもによくみられるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
5	子どもによくみられる痙攣	子どもによくみられる痙攣を引き起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
6	子どもによくみられるウイルス・細菌性感染	子どもによくみられるウイルス・細菌による感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が理解できて、現場でその対応・予防ができるようになる。
7	施設などでの衛生管理	施設などでの感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。
8	子どものさまざまな病気	子どもによくみられる骨・関節の病気・耳の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気・心臓の病気が解り、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの精神保健	幼児期によくみられる『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防及び保育者へのかかわり方が解る。
10	VTR視聴による学習	小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTRを視聴し、白血病の状態や治療のつらさが解るようになる。
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険防止・事故防止・安全教育における保育者の役割ができる。
12	保育現場における事故防止・安全対策	子どもの発達段階ごとの事故の特徴とその種類が解り、子どもへの安全教育の重要性が理解でき、子どもに安全教育・指導ができるようになる。
13	子どもの救急処置①	保育所で起こった、けが・鼻出血・やけど・溺水・窒息を紹介しながら、それらの対応が解る。
14	子どもの救急処置②	保育所で起こった熱中症の事例を紹介し、なぜ、熱中症が予防できなかったのか?をディスカッションし、熱中症の原因・症状・予防が解る。
15	まとめ	『子どもの健康』が理解できているか、を確認する。

科目名	こどもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S22006
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎として、子どもの健康問題や、事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するために必要な技術を習得すると共に実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集（中山書店）

《参考図書》

子どもの保健1A・1Bで使用した」テキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応が素早く適切にできるようになる。
4. 毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがおの場に出くわしたとして、どのような応急処置・救急処置を行うか、をイメージしておく。また、幼稚園・保育所実習時、園児の病気や怪我をした時にどのような対応・応急処置をされていたかを想起して、演習に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・実習に臨む態度（10%）
- ・学期末確認試験（90%）

《備考》

授業テーマによっては、皆さんに持参してほしい物があるので、ご協力をお願いします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能を想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と保育者として見落としてはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて、乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるようになり記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解し、その対応ができるようになる。
4	乳幼児の養護①	発達段階に応じた抱っこの仕方・衣服の着脱・おむつの当て方の方法をモデル人形を用いて実際に行うことができ、注意点が解る。
5	乳幼児の養護②	発達段階に応じた身体の清潔の目的・方法を理解し、発達段階に応じてその方法をモデル人形を用いて実際にできる。
6	清潔の指導① -手洗いを通して-	発達段階に応じた手洗いの目標がわかり、細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、手洗いの重要性を園児に指導することができるようになる。
7	清潔の指導② -むし歯予防-	発達段階に応じたむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができるようになる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、幼稚園教諭・保育士には子どもの命を守るという危機管理がのしかかっていることが解る。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して行動し“なぜか？”の理由が解る。
11	応急手当①	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当の仕方が解る。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオの内容に示されていない、頭部外傷・骨折の疑いの症状と病院に搬送するまでの応急手当を実際に行うことができる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じた心肺蘇生の仕方が解る。
14	救急蘇生を実際に行う	心肺蘇生用のモデル人形を用いて、子どもの命を守るができるように、発達段階に応じた心肺蘇生ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの食と栄養 I	科目ナンバリング	YS_S23007
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《テキスト》

「子どもの食と栄養～健やかに発育する食生活をめざして～」赤塚順一他，著 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発育段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

学外実習で、子供たちの食環境について学んでください。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活	子どもの栄養の意義と特徴，我が国の最近の食生活の現状と課題について理解し，健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの健康と食生活	子どもの発育と栄養の特徴，子どもの食行動の問題点を理解する。
3	食生活のチェック	自分自身の食生活の問題点を見つけることができる。
4	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（炭水化物，脂質）
5	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（たんぱく質，エネルギー）
6	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（無機質，ビタミン，水分）
7	食事摂取基準	食事摂取基準とは何か。日本人の食事摂取基準について理解する。
8	接触・消化機能の発達	小児の食物摂取機序，消化吸収の生理を理解する。
9	栄養状態の評価	食生活が健康状態や成長・発達に及ぼす影響を見るための指標について理解する。
10	献立・調理の基本	献立作成の基本，1日の栄養配分，調理の意義と方法を理解する。
11	乳児期の心身の発達と栄養	授乳栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）について理解する。
12	乳児期の心身の発達と栄養	育児用ミルクの種類や特徴を理解し，調乳ができる。
13	離乳期の心身の発達と栄養	離乳栄養（離乳の必要性，離乳食の進め方）について理解する。
14	離乳期の心身の発達と栄養	離乳食の作り方，調理方法などを学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき，その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもの食と栄養Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23008
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

食事は子どもにとって身体の成長のための栄養摂取だけでなく、基本的な人間形成に極めて重要である。健全な心身の発達を目指すため、保育に関わる人々が、子どもの頃からの発育の栄養学を理解することが求められる。「こどもの食と栄養Ⅱ」では、幼児期から学童・思春期における栄養と食育を含む食環境および特別な配慮を要する子どもの基礎的なことを学ぶ。

《テキスト》

「子どもの食と栄養一健やかに発育する食生活をめざして」
赤塚順一 他著， 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
- 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テストやレポート、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

子どもをとりまく社会・環境と健康に目を向けて、授業には受け身でなく、積極的に取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期栄養の特徴と必要性，栄養上の注意を理解する。
2	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の間食の意義について理解する。幼児食の実習
3	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し指導法を考える。
4	学童期・思春期の心身の発達と栄養，生涯発達	学童期・思春期の心身の発達，学童期の栄養の問題を理解する。学校給食の目標，栄養管理について理解する。
5	食育について	食育基本法について学ぶ。保育所・幼稚園における食育の目標，内容について理解する。
6	食育について	保育所における食育計画の立て方（計画・実施・評価・改善）を理解する。
7	食育について	保育所における食育の実際，食育のための環境について理解する。
8	食育について	食育推進のための保護者・地域との連携を理解し，保護者に向けての食育便りを作成することができる。
9	家庭における食事と栄養	家庭の食事と栄養の特徴，家庭の食生活をとりまく現状と課題，保育所・地域と家庭との連携を理解する。
10	食品と食の安全	食品の選び方，食の安全性について理解する。
11	施設における食事と栄養	児童福祉施設の給食，保育所の給食の役割・問題点について理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	慢性疾患，肥満症，糖尿病の子どもへの対応について理解する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもの栄養について学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき，その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと健康	科目ナンバリング	YS_S22009
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児の発達の特徴を踏まえ、ふさわしい運動遊び、生活習慣、保育者の役割を理解する。乳幼児の身体や心、子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、より良い方法を考える。

《テキスト》

『保育内容「健康」』高内正子他編、保育出版社

《参考図書》

保育所保育指針 2008年フレーベル館
 幼稚園教育要領 2008年フレーベル館
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領2014年フレーベル館

《授業の到達目標》

- 領域「健康」のねらいと内容を理解する。
- 発達の道筋について理解し、具体的な保育方法について知る。
- 子どもの「健康」について理解し、具体的な指導方法を考えることができる。

《授業時間外学習》

日頃から「健康」に関する時事問題について意識を高めて情報を収集しておくこと。意識して子どもに触れる機会を持つようにすること。子どもの様子を観察して学んだことと重ねる事が出来るように。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験60% (2) 平常点30% (学習準備や課題への取り組み、提出物、グループワークでの積極性等) (3) その他10% (授業態度)

《備考》

子どもの「健康」を理解するためにまず、日ごろから自分自身の健康に対する意識を高めておくこと。健康的な生活を心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 領域「健康」とは	領域「健康」 健康保育・安全保育の概念
2	領域「健康」の変遷	領域「健康」について時代の変化とともにその内容の移り変わりについて学ぶ。
3	伝統的行事と子どもの健康	保育行事の分類、年間行事計画、代表的な保育行事とその由来
4	保育行事と子どもの健康な育ち	保育行事の意義
5	子どもの健康と生活	食物アレルギー、子どもの生活習慣病、生活リズムの重要性について
6	自然環境と子どもの健康	健康と自然環境について、自然の中での子どもの遊び、幼児期に触れる自然
7	子どもの遊びと健康	子どもの遊びとは、子どもの遊びの今昔、子どもの遊びと発展性
8	子どもの運動指導と健康①	運動発達の適時性、子どもの運動発達について、子どもの運動発達の今昔
9	子どもの運動指導と健康②	子どもの運動指導の実際①
10	子どもの運動指導と健康③	子どもの運動指導の実際②
11	子どものこころの健康①	子どもの心の発達 子どものストレスとそのサイン
12	子どものこころの健康②	指しゃぶり、トゥレット症候群、夜尿症への対応 子どもの権利条約 虐待の現状について、その対応
13	子どもといのちの教育	子どもといのちの出会い、子どもと話すいのち、子どもに命の大切さを伝える
14	子どもの安全教育	子どもへの安全教育と安全管理 安全を守るための避難訓練 子どもと交通安全教育
15	まとめ	幼稚園教育要領、健康とは、指導計画に活かす

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと人間関係	科目ナンバリング	YS_S22010
担当者氏名	鎮 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解することから始める。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討議、人間関係を育む具体的なあそびの立案をしながら進めていく。

《テキスト》

保育内容人間関係 小田豊・奥野正義著 北大路書房 2009

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

①子どもと人のかかわりの発達過程を理解できる。②子どもどうしの関係性の発達を理解できる。③子どもの関係性の発達における保育者の役割を理解できる。

《授業時間外学習》

①授業前：テキストの予習を期待する。②授業後：授業内容の復習と

《成績評価の方法》

①グループワーク等への参加姿勢、提出物40%②レポート試験60%

《備考》

日常から子どもの姿に接し、理解を深めるように努めることを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション 授業概要の説明から、講義の全体像の把握、到達目標を理解する。
2	保育内容人間関係の目指すもの	保育内容人間関係の目指すものは何なのか、保育内容人間関係の歴史の変遷を概観し、理解する。
3	現代社会と子どもの人間関係	社会環境と子どもの人間関係のかかわりを理解する。
4	道徳性について	幼児期に育てるべき道徳性について学び、理解する。
5	乳児期の人間関係	乳児期の人間関係の特徴について、愛着形成を中心に理解する。
6	幼児期の人間関係	幼児期の人間関係の特徴について、仲間とのかかわりを中心に理解する。
7	あそびと人間関係	乳幼児期におけるあそびと子どもの関係性の発達について理解する。
8	気になる子どもについて	保育における気になる子どもへの理解と、関係性について理解する。
9	保育者間の人間関係	保育者間の人間関係について考え、よりよい職場環境の形成について考える。
10	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係について考え、子どものために望ましい連携について考察を深める。
11	保育者と地域・関係機関との人間関係	地域の人、機関との連携や日常的かかわりについて理解する。
12	自己理解のワーク	グループワークを通して、自己理解を促進し自身への洞察を深める。
13	関係性を学ぶグループワーク	グループワークを通して、自身の関係性の持ち方を知り、自己理解を深める。
14	事例検討	グループで事例検討することで、人との関係性、子どもの見方を学ぶ。
15	まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り考察することができる。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽表現	科目ナンバリング	YS_S22013
担当者氏名	立本 千鶴子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「表現」における音楽の内容を理解し、幼児の発達と音楽の関連性を知ることが保育者として重要なことである。それらを基盤として、子どもの歌、歌の指導法、調性とコードネーム、教材開発と音楽指導法、楽器の理解及び合奏等を修得する。そして、実際に幼稚園や保育園での使用頻度の高い題材を用いて、保育実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「表現」における音楽の内容及び幼児の発達と音楽について説明できる。
- (2) 子どもの歌を習得してレパートリーを増やし、保育者らしい明るさと表情で歌うことができる。
- (3) ペーパーサートや手作り楽器等の教材を、イメージ豊かに教育的視点から創造することができる。
- (4) リズム楽器を正しく奏で、合奏をすることができる。

《成績評価の方法》

授業目標の (1) はレポート、(2) は実技、(3) は作品、(4) は実技で評価する。また、全体を通して授業への参加態度と意欲を加味する。評価の割合は、レポート10%、作品30%、実技30%、授業への参加態度と意欲30%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《テキスト》

- 「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015
- 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」/石井玲子他/保育出版社/2010

《参考図書》

テキスト以外の楽譜・資料等は、適宜配布する。

《授業時間外学習》

- ・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
- ・ 授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」の理解
2	子どもの発達と音楽	0歳児から6歳児までの音楽面の発達について
3	子どもの歌 (1)	四季 (春・夏・秋・冬) の歌
4	子どもの歌 (2)	子どもの年齢ごとに適した歌・保育展開に使用できる歌
5	子どもの歌 (3)	園生活における歌・園行事に関する歌
6	歌の表現と指導法	感情 (楽しい・悲しい・嬉しい・寂しい等) と状態 (賑やかな感じ・可愛らしい感じ・ゆったりした感じ等) の感受と幼児へ指導法
7	調とコードネーム (1)	ハ長調・ヘ長調の調とコードネーム
8	調とコードネーム (2)	ト長調・二長調の調とコードネーム
9	教材開発と音楽指導法 (1)	ペーパーサートの制作とそれを用いた音楽表現指導
10	教材開発と音楽指導法 (2)	手作り楽器の制作とそれを用いたリズム遊び
11	幼児と楽器 (1)	リズム楽器の基本的知識 (タンブリン・鈴・カスタネット・トライアングル・マラカス・ウッドブロック・大太鼓・小太鼓等) 及び奏法 (叩く・こする・はじく等)
12	幼児と楽器 (2)	リズム楽器以外の楽器 (鍵盤楽器、木琴・鉄琴等) 及び諸外国の楽器・民族楽器
13	合奏及び幼児への指導法 (1)	各年齢に応じた合奏譜を用いた合奏及び導入・指導展開法
14	合奏及び幼児への指導法 (2)	各年齢に応じた合奏譜を用いた合奏及び指揮法
15	総まとめ	これまでの学びの振り返りとまとめ

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと言語表現	科目ナンバリング	YS_S22015
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本講では、人間の言葉の獲得についての基本的な知識を習得する。また、保育の場において子どもの言葉の育ち・言語表現の望ましいあり方を支援するための保育者に求められる具体的な活動や態度について、事例や実践を取り入れながら学ぶ。

《テキスト》

保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 2008年 フレーベル館
 『保育所保育指針』 2008年 フレーベル館
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 2014年 フレーベル館

《授業の到達目標》

- ・子どもの言語表現を豊かに支援する方法・技術が習得できる。
- ・子どもの発する言語から子どもの内面理解が深まる。
- ・教職（保育）に対する自らの適性を探求し、実践者としての意欲を高めることができる

《授業時間外学習》

- ・適宜課題を出すので、課題について深く考えたり、調べたりすること。
- ・授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておくこと。

《成績評価の方法》

- ①筆記テスト60%
- ②レポート課題等の提出20%（提出遅れは減点）
- ③授業内討議や発表などへの参加・態度と成果20%

《備考》

- ・子どもの話し言葉に耳を傾ける習慣を身につける。
- ・豊かな言葉を聞いたときは、メモを取っておく
- ・絵本や童話等をよく読みこなす。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法等のガイダンス。
2	保育の基本と領域「言葉」	領域「言葉」の内容の取扱い
3	領域「言葉」について	領域「言葉」についての基本的な考え方を理解し、子どもにとっての言葉の獲得の意義を知る。
4	言葉の発達過程	子どもは誕生時からどのように言葉を獲得するのか、子どもの発達の過程と言葉のかかわりについて学びを深める。
5	言葉の発達①	言葉の発達のとらえ方と子どものかかわりについて学ぶ。（乳児）
6	言葉の発達②	言葉の発達のとらえ方と、子どものかかわりについて学ぶ。（幼児）
7	言葉と人間関係	言葉の育ちにかかわる諸課題をとらえ、言葉と人間関係・コミュニケーションについて学ぶ。
8	言語表現と身体表現	乳幼児期には、言語表現と重ねて身体による表現がよく見られる。言語表現と身体表現のかかわりを探りながら乳幼児の内面を探る手法を習得する。
9	豊かな言語表現を育む①	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（乳児への語りかけ）
10	豊かな言語表現を育む②	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（幼児への語りかけ）
11	言葉を育む保育①	経験したことや思い、考えを言葉で表現する力を育てる保育を学ぶ。
12	言葉を育む保育②	言葉が育つ環境 言葉の育つ体験を大切にする保育の実際を学ぶ。
13	言葉を育む保育③	絵本を通して子どもがその言葉の内容を理解し、話の世界・情景等を感じ取れる指導法をさぐる。
14	保育者の専門性と言葉	保育者の実践知 同僚性の中で育まれる知について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと生活	科目ナンバリング	YS_L22024
担当者氏名	安藤 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

こどもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する

《テキスト》

『子どもに伝えたい年中行事・記念日』 萌文書林編集部編
萌文書林

《参考図書》

随時紹介

《授業の到達目標》

- ・こどもを取り巻く生活環境などについて理解する
- ・こどもと生活について、多面的に理解する
- ・こどもへの危機管理について理解する

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し専門用語の意味等ノートに整理して理解しておくこと

《成績評価の方法》

定期試験 80% 出席状況 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こどもの生活実態 (1)	実態調査からみる、こどもの生活実態
2	こどもの生活実態 (2)	実態調査からみる、こどもの生活実態
3	こどもの生活	現代社会とこどもの生活
4	こどものしつけ	しつけの意義、しつけの方法、しつけと虐待
5	こどもの生活リズム	現代のこどもの生活リズム
6	こどもの遊び	あそびの意義、現代のこどもの遊びの特徴
7	こどもの家庭生活	基本的な生活習慣
8	こどもの社会生活	地域の子育て支援、こどもの地域のつながり
9	こどもの生活と行事	こどもの生活と春の行事
10	こどもの生活と行事	こどもの生活と夏の行事
11	こどもの生活と行事	こどもの生活と秋の行事
12	こどもの生活と行事	こどもの生活と冬の行事
13	こどもの生活とメディア	こどもとメディアの活用について
14	こどもと生活の課題	こどもと生活についての問題点を考える
15	こどもの生活の展望	こどもと生活環境の今後について考える

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S22026
担当者氏名	土居 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

さまざまなこども文化財を保育活動の中で展開できるように概説するとともに、自らもこども文化財の創作を試み、発表（模擬保育）を通して、こども文化の意義を知り、実践力を養う。

《テキスト》

『児童文化と保育』高橋司 宮帯出版社

《参考図書》

『乳幼児のことばの世界』高橋司 宮帯出版社
 『子どもの本100問100答』大阪国際児童文学館編 創元社

《授業の到達目標》

こどもの健全育成に資するこども文化財の高いスキルを習得するとともに、保育者としての感性や創造性を育む。

《授業時間外学習》

日常的にこどもの文化財に触れる機会を持つ。

《成績評価の方法》

定期試験 50% 創作作品・発表内容 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代のこどもの生活とこども文化	現代におけるこども文化の重要性
2	こども文化の重要性	創作への心構え
3	こども文化を創るⅠ（絵本）	ことばあそび絵本の創作
4	こども文化を創るⅠ（絵本）	ことばあそび絵本の発表
5	こども文化を創るⅠ（絵本）	コラージュ絵本の創作
6	こども文化を創るⅠ（絵本）	コラージュ絵本の発表
7	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	紙芝居とは？グループ分けして企画
8	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	作品の創作（絵コンテ、脚本）
9	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	作品の創作
10	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	創作・練習
11	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	グループごとの発表・評価
12	おはなしを語る1	素話の素材の探求
13	おはなしを語る2	素話の練習
14	おはなしを語る3	素話の発表と評価
15	こども文化の現状と課題	こども文化の現代的な課題について考える

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育課程総論		科目ナンバリング	YS_L12006	
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

保育・幼児教育における課程の意義と役割、また課程編成の原理と方法について講義する。
 保育・教育課程、指導計画の実践的な編成能力を育成することを目的とし、保育・幼児教育現場で使用される指導計画等を検討する。

《テキスト》

谷田貝公昭編集 高橋弥生編著 コンパクト版保育内容シリーズ『教育・保育課程論』一藝社 2017年

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育課程・教育課程の意義と役割が理解できる。
- 保育の評価について理解できる。
- 保育の計画、実践、省察、評価、改善のサイクルについて理解できる。
- 指導案の作成ができる。

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各界のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《成績評価の方法》

受講態度（20%）、課題提出物等（30%）、筆記試験（50%）の総合評価とする。
 提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

課題等の提出物は期限厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	カリキュラムの基礎理論①	教育活動におけるカリキュラムの意義と役割について学ぶ。
3	カリキュラムの基礎理論②	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について学ぶ。
4	教育課程・保育課程の意義と実際	教育課程・保育課程編成の原理と方法について学ぶ。
5	指導計画の意義と実際	各種指導計画編成の原理と方法について学ぶ。
6	保育形態と保育方法	様々な保育形態や保育方法による指導計画の特徴と留意点について学ぶ。
7	保育の評価①	保育評価の視点について理解を深める。
8	保育の評価②	保育評価の実践的な実施方法について学ぶ。
9	保育の記録①	保育記録の意義と役割について学ぶ。
10	保育の記録②	実践的な保育記録の作成方法について学ぶ。
11	指導計画の作成①	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。
12	指導計画の作成②	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。
13	指導計画の具体的検討①	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。
14	指導計画の具体的検討②	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。
15	まとめ	これまでに学んだことの整理と総括を行なう。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	YS_S22007
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

テキストや資料、具体的事例を基に幼児理解を深め、保育活動の組み立てに関する講義を行う。実践演習と省察を通して保育技術を培う。

《テキスト》

民秋言他『保育内容総論』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育内容を総合的にとらえ考察する視点を養う。
- 保育活動の計画・展開・評価について具体的事例や演習を通して理解を深める。
- 保育の現代的課題について自分なりの問題意識を明確にする。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

受講態度（20%）、課題提出物等（30%）、模擬保育（30%）、筆記試験（20%）の総合評価。課題の提出は期限厳守。
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	幼児理解	幼児理解を深めるための視点について考察する。
3	保育内容の歴史的概観	保育内容の歴史的変遷を理解し、現代保育の位置づけを考察する。
4	子どもの生活と遊び	保育における子どもの生活、遊びが持つ意味を考察する。
5	領域と保育内容	領域の特性を理解し、保育内容との関連について考察する。
6	保育内容の計画	活動計画の意義と方法を理解する。
7	活動の展開と保育における指導の特質	保育における指導の特質を理解し、活動計画立案の視点を獲得する。
8	保育の評価と記録	評価及び記録の意義と方法を理解する。
9	事例研究…室内活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
10	事例研究…戸外活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
11	模擬保育の実施と反省（3歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
12	模擬保育の実施と反省（4歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
13	模擬保育の実施と反省（5歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
14	保育の現代的課題	現代の保育を取り巻く様々な課題について、各自の問題意識を明確にする。
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	YS_L22009
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。
質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』 鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
 『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』 藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
 『よくわかる発達障害 第2版』 小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解	子ども時代の発達について、知的側面ならびに社会的側面から学ぶ。
13	青年期の発達の理解	思春期・青年期の心理的特徴について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するための筆記試験を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	YS_L22010
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに對してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《テキスト》

『新・保育講座③ 幼児理解と保育援助』
森上史郎・浜口順子（編） ミネルヴァ書房 2003

《参考図書》

『子ども理解と援助 ―子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際―』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著）
保育出版社 2004

《授業の到達目標》

- 子どもの内面世界を理解することの重要性について理解すること。
- 子どもの内面世界を理解するための方法について熟知すること。
- 子どもの健全な発達のために保護者支援が必要であることを理解し、保護者支援のあり方について理解を深めること。

《授業時間外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。

《成績評価の方法》

- ・授業時間内に課す「ミニレポート」に対する評価 70%
 - ・学期末に課す「まとめのレポート」に対する評価 30%
 - ・レポートは提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。レポートはコメントを付して返却する。
- 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児理解の必要性	子どもの目に見える行動を把握するだけでなく、内面世界に目を向けることで行動の意味を理解することがいかに重要かを理解する。
2	子どもの発達理解	幼稚園教育要領を題材にし、幼児の特性と幼児期の発達の特徴を確認する。
3	子どもの内面の理解	子ども時代の様々なエピソードを受講学生から収集し、そのエピソードを題材として子どもの心の動きを理解し子どもに寄り添うための練習をする。
4	子どもの内面の理解	絵本に描かれた子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
5	子どもの内面を理解するための方法	実習日誌に記録された子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
6	子どもの内面を理解するための方法	子どもと関わりつつ観察することによって浮かび上がってくる子どもの内面世界を理解する。
7	子どもの内面を理解するための方法	描画や歌などの子どもによる自己表現を通して、子どもの内面世界を理解する。
8	子どもの内面を理解するための方法	子どもの理解を妨げる要因としてのステレオタイプについて学ぶ。
9	子どもの理解と援助	子どもを理解し援助する上で不可欠となるカウセリングマインドについて理解する。
10	子どもの理解と援助	遊びを主とした子どもと保育者との関わりを通じて、子どもがどのように育つのかを理解する。
11	子どもの理解と援助	子どもの気になる行動をどう理解し、どのように対処していけばよいかを事例を通して考える。
12	子どもと子育てを取り巻く現状理解	子育てを取り巻く現代的課題について理解する。
13	保護者支援のありかた	保育者と保護者との間に信頼関係を構築することの必要性を理解し、保育者と保護者との間に信頼関係を構築するためにとり得る方策について学ぶ。
14	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。
15	まとめ	授業を通して理解したことを総括し、レポートを作成する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	音楽教育	科目ナンバリング	YS_S22018
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

保育現場での実践力を高めるために、年間を通した乳幼児の育ちや総合的表現という視野から音楽を捉える中で、保育における音楽の活用法を学ぶ。また、乳幼児にとってのねらいを達成するために必要な具体的な指導方法について学び、実践力を修得する。

《テキスト》

- 「新・幼児の音楽教育」 / 井口太 / 朝日出版社 / 2015
- 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」 / 石井玲子他 / 保育出版社 / 2010

《参考図書》

音楽表現のテーマごとに、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 手遊びのレパートリーを増やし、音程を正しく、保育者らしい表現ができるか。
- (2) 様々なリズムパターンを修得できるか。
- (3) 教材を教育的視点からイメージ豊かに作ることができるか。
- (4) 保育指導案を正しく、自分の意図を持って作成できるか。

《授業時間外学習》

- ・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
- ・ 課題を授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)は実技、(2)は試験、(3)は作品、(4)は試験で評価する。また、全体を通して授業への参加状況と意欲を加味する。評価の割合は、実技30%、試験30%、作品10%、授業への参加状況と意欲30%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	手遊びの指導法(1)	各年齢に適した手遊び曲の習得と導入法について
3	手遊びの指導法(2)	季節・動物・数字等それぞれのテーマ性を持った手遊びの習得
4	手遊びの指導法(3)	ストーリー性・ゲーム性・教育的テーマ性を持った手遊びの習得
5	幼児とリズム表現(1)	4分の4拍子・4分の3拍子・4分の2拍子・8分の6拍子の理解と様々なリズムパターン
6	幼児とリズム表現(2)	マーチやスキップ等幼児の動きとリズム・ボディパーカッション
7	幼児とリズム表現(3)	「おはなしリズム」・「おはなしリズム」を組み合わせた音楽表現の創造
8	わらべうた(1)	乳児を対象としたわらべうた・幼児(各年齢ごと)を対象としたわらべうた
9	わらべうた(2)	小道具・ぬいぐるみ・乳幼児に身近な物を用いたわらべうた
10	わらべうた(3)	身体表現を伴うわらべうた・ゲーム性のあるわらべうた
11	音楽の保育展開と教材開発(1)	指人形の制作
12	音楽の保育展開と教材開発(2)	制作した指人形を用いた音楽遊び・身近にある物を用いてできる音楽遊び
13	指導法の検討(1)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成(保育園での設定保育を視座として)
14	指導法の検討(2)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成(幼稚園での設定保育を視座として)
15	総まとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅰ		科目ナンバリング	YS_S22022	
担当者氏名	渡邊 慶一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる			

《授業の概要》

保育者は子ども家庭福祉の最前線に立つ者として、子どもに対する生活支援や遊びへの支援（保育技術）のみならず、保護者の立場に寄り添った支援（保育相談支援）をも視野に入れた幅広い役割が求められている。本授業は、保育の特性をいかした保護者支援のあり方について、演習形式の授業を交えながら基本的知識および技能の獲得を目指す。

《授業の到達目標》

1. 保育相談支援の意義と原則について説明することができる。
2. 保護者支援の基本的技能について修得する。
3. 保育相談支援の実際を学び、基礎を応用につなげていく視点を理解する。

《成績評価の方法》

「授業中に課す演習課題への取り組み30%」「授業後に課すレポート課題30%」「授業の前半で実施する確認テスト40%」により評価する。
 欠席が授業回数の1/3を超えた時点で評価の対象としません。
 また、遅刻についても厳正に評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	保育相談支援とは何か
2	保育相談支援の意義	家族・保護者の現状、保護者のニーズ、保護者支援の意義
3	保育の専門性と保育相談支援	求められる専門性、保育相談支援の構造、支援の技術・方法
4	保育相談支援の展開過程	保護者からの相談内容、保育相談支援の展開過程、支援者の倫理、他機関との連携
5	子どもの最善の利益と保育相談支援	子どもの権利、条約・憲章、アボドガシー・代弁
6	保護者の養育力の向上	保護者の理解、エンパワメント、親の成長、子育てのパートナーとしての保育者
7	保護者との信頼関係の構築	受容、共感、自己決定、秘密保持
8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力	子育ての地域資源、ネットワーキング・組織化
9	保育相談支援の計画・記録・評価	支援計画の必要性、カンファレンス、記録の方法、ジェノグラム、エコマップ、評価の種類と方法
10	保育所の特性を活かした保護者支援	面接技法、相談・助言、保育指導、子育て支援センター
11	特別な支援を必要とする保護者への支援	子ども虐待が疑われる家庭、ひとり親世帯、発達障がい
12	問題・課題を抱える保護者への支援	不適切なかかわり、苦情を繰り返す、保護者同士のトラブル、地域型保育・小規模保育
13	保育相談支援の事例検討①	育児不安、生活課題、利用できる社会資源
14	保育相談支援の事例検討②	児童相談員と保育士の役割、多職種連携・他分野との連携
15	まとめ	講義と演習のふりかえり

《テキスト》

成清美治・真鍋頭久編『家庭支援論・保育相談支援』学文社

《参考図書》

小原敏郎・橋本好市・三浦主博編『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 演習・保育と保護者への支援—保育相談支援』みらい
 橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
 柏女圭峰。橋本真紀編著『保育相談支援』ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

レジュメプリントやワークシートを作成し配布します。授業のふりかえりや準備学習を行うと共に、子どもや家庭に関連するニュースや新聞、また身近で起こった出来事などを通して、日頃から社会的な動きに関心を持ち、問題意識を高められるよう心掛けてください。

《備考》

ワークショップ形式の授業も取り入れていますので、積極的に参加するようにしましょう。そのため、出欠席に関する自己管理を十分行うようにしましょう。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習 I A	科目ナンバリング	YS_F22025
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育士の役割について実践的に学ぶ。

《テキスト》

実習園の指導内容を参考にする事 久富陽子『保育の学びスタートブック』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

実習園の指導を参考にする事 保育実習指導 I A で用いた資料やノートを参考にする事

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能について理解する。
- 保育所における乳幼児の生活を実践的に学ぶ。
- 保育士の職務について実践的に学ぶ。
- 観察や記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する(100%)。
 課題へのフィードバック：わからないことは随時質問を受け付ける。

《備考》

円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導 1 A、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導ⅠA		科目ナンバリング	YS_S22029
担当者氏名	澤田 真弓			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

保育所での現場実習に向けて、実習の意義と目的を理解する。各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行う。

《テキスト》

久富陽子他『保育の学びスタートブック』萌文書林 『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 相馬和子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能を理解する。
- 実習内容や方法、心得を理解し、現場実習に向けた準備を整える。
- 保育所を利用する子どもや保護者についての理解を深める。
- 保育士の職務内容について理解を深める。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

事前指導（50%）、事後指導（50%）
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と実習全体の説明 保育士資格について 実習手続きについて
2	事前指導1	実習の意義と目的
3	事前指導2	保育所の生活（1） 乳児クラス
4	事前指導3	保育所の生活（2） 幼児クラス
5	事前指導4	保育所の生活（3） 子育て支援活動 保育所に勤務するさまざまな職種
6	事前指導5	保育士の職務
7	事前指導6	実習の心構え 実習生に求められること 子どもや保護者、職員とのかかわり
8	事前指導7	実習中に学ぶこと 実習における観察の視点
9	事前指導8	実習ノートの記入（1） 実習ノートの意味 記録の書き方（1）
10	事前指導9	実習ノートの記入（2） 記録の書き方（2）
11	事前指導10	直前指導 実習中の注意事項 実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

《専門教育科目 発展科目》

科目名	子育て支援地域活動 I	科目ナンバリング	YH_L22001
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子育て支援の理念や歴史文化的な視点から子育てを検討します。また、保育所、幼稚園、地域子育て支援センター等の活動を事例から学びます。地域子育て支援活動の中で様々な家庭の子育て支援を理解し、効果、課題を明らかにします。地域子育て支援拠点の成り立ちや制度を知ることにより、子育て支援地域活動の実践的な学びへと展開をします。

《テキスト》

子育て支援プロジェクト研究会編『子育て支援の理論と実践』ミネルヴァ書房

《参考図書》

渡邊頭一郎・橋本真紀編著『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引』中央法規
授業中に適宜紹介をする。

《授業の到達目標》

- 子育て支援の歴史文化的な視点から子育て支援の意義を理解する。
- 保育所、幼稚園、地域子育て支援センターなど子育てに関連する施設の機能や目的を知り、実践が展開できるように計画をする。
- 地域子育て支援拠点のことを学び、在宅の子育てについても理解を深める。

《授業時間外学習》

- (1)授業中に出されて課題には積極的に取り組むこと。
- (2)子育て支援移管する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと。
- (3)ボランティア活動に積極的に参加することが望ましいが、授業を優先すること。

《成績評価の方法》

- (1)授業中の態度や発表等 (10%)
- (2)レポートなど提出物 (30%)
- (3)筆記試験 (60%) 授業の最後には振り返りを行う

《備考》

授業形態は講義ですが、理論だけでなく実践からも子育て支援地域活動を考えていきます。実践活動も取り入れることもあります。学生の主体的に学びを深めることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援の理念	① 子育て支援は何のためか ②子育て支援の研究動向
2	子育て支援の歴史文化的諸相	① 伝統社会の子育て ② 家族の近代化と子育て不安 ③ 少子化社会の子育て不安
3	幼稚園による地域の子育て支援	① 地域の子育て支援の意義 ② 幼稚園の園庭開放の実際 ③ 地域の子育て支援の在園児とのかかわりと保護者の育ち
4	保育所における子育て支援	① なぜ保育所が子育て支援をするのか? ② 現代家族の課題と政策 ③ 保育所が行う子育て支援(保護者支援) ④保育所外で行う子育て支援の実践例
5	子育てセンターの活動と課題	① 実践事例にみる活動の実際 ② 子育てセンターにおける活動内容 ③ 子育てセンターの課題
6	地域子育て支援活動Ⅰ	① 地域に根ざした子育て支援 ② 保育所併設型地域子育て支援センターの試み ③ 障害家庭を支援する
7	地域子育て支援活動Ⅱ	④ 地方自治体の子育て支援 ⑤ NPO, 社団法人の子育て支援 ⑥ 家庭的保育の子育て支援
8	子育て支援の効果	① 子育て意識尺度の開発 ② 子育て支援と子育て意識 ③ 子育て支援の効果 ④ 効果的子育て支援
9	父親の子育ての支援活動	① 父親を取り巻く状況 ② 父親を支える子育ての支援とは ③ おやじの会がもたらす子育ての支援とは
10	子育て支援活動の展望と課題	① 錯綜する子育て支援 ② ユニヴァーサル社会の中の子育て ③ 子育て支援のスタンス・パラダイム ④ 子育て支援のアラカルト
11	地域子育て拠点とは	子育て支援拠点とは何か
12	地域子育て支援拠点の成り立ち	① 地域子育て支援センター事業の成り立ち ② つどい広場事業の成り立ち
13	地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ	母親たちがゆっくりできる広場
14	学修まとめ・実践例	① 地域子育て支援活動と展望 ② 地域子育て支援の担い手を育てる・実践例
15	筆記試験と振り返り	教科書を中心に授業で学んだことについて筆記試験を行う